

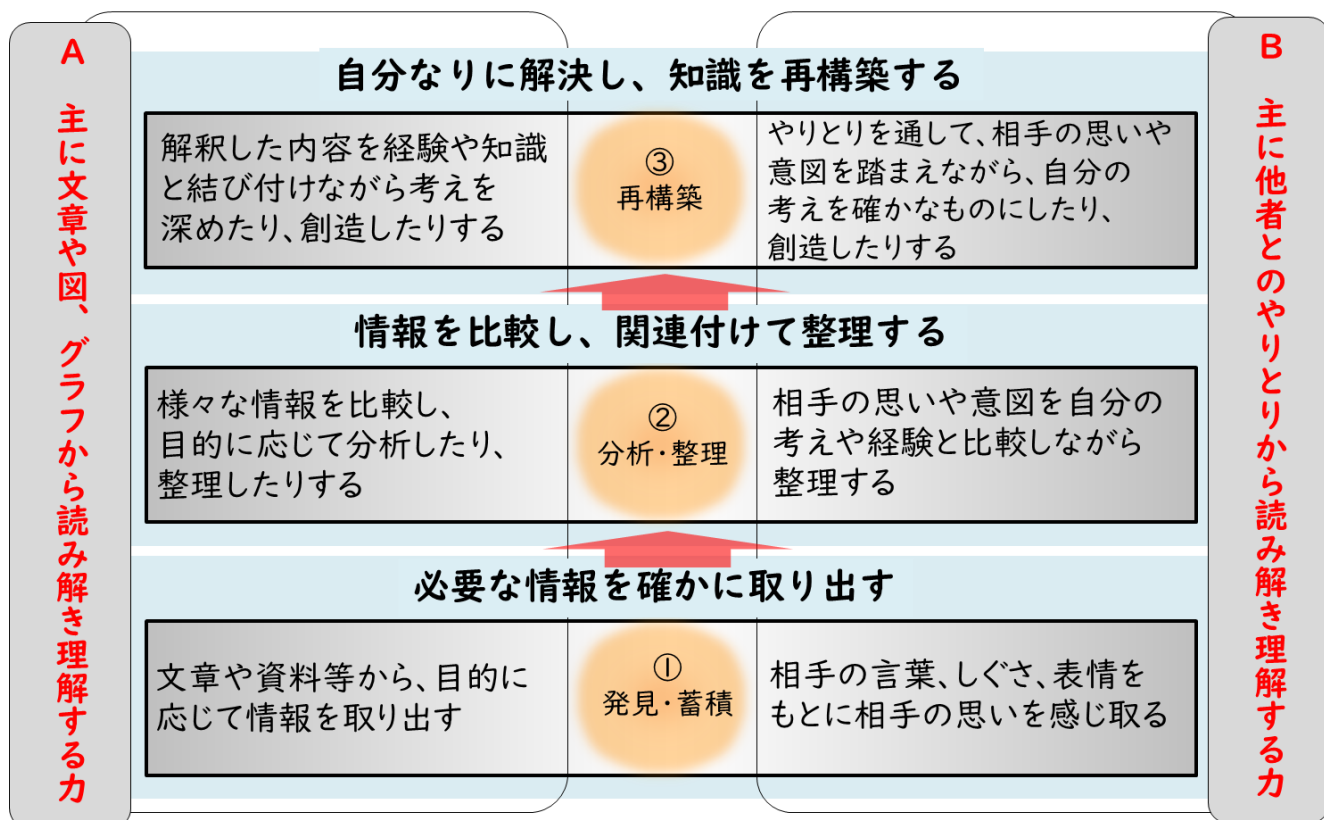


令和2年度
「読み解く力」
公開授業レポート

「読み解く力」実践事例DVD
解説資料

本冊子の活用について

「読み解く力」イメージ図



滋賀県では、上の図のように「読み解く力」を、AとBの2つの側面と①から③の3つのプロセスで整理しています。

児童生徒が、教科等の学習において必要な情報を取り出し、それを根拠にして考えを構築し、対話することで考えを磨き、再構築につなげていくことが、各教科等で目指す資質・能力を確かに育成することにつながります。

また、このような「読み解く力」を高め、発揮するためには、児童生徒が目的意識をもって学習活動に取り組むことが重要となります。

本冊子は、令和2年度「読み解く力」育成プロジェクトの「読み解く力」公開授業研究会において、研究指定校で公開された授業とその後の授業研究会についてまとめました。各学校に配付された実践事例DVDとともに校内研究や研修等に御活用ください。



研究内容・実践事例はこちら

<https://www.shiga-ec.ed.jp/www/contents/1606442352025/index.html>
滋賀県総合教育センター「読み解く力」授業づくり関連情報



本冊子に掲載している授業の学習指導案やプロジェクト研究の成果物等を公開しています。

目次

・小学校第1学年	国語科	大津市立長等小学校	左寄 綾子 教諭	・ ・ ・ ・ ・	3
・中学校第2学年	数学科	近江八幡市立八幡中学校	柳内 祐樹 教諭	・ ・ ・ ・ ・	5
・中学校第3学年	社会科	湖南市立甲西中学校	藤井 雄基 教諭	・ ・ ・ ・ ・	7
・小学校第5学年	算数科	野洲市立野洲小学校	角 憲幸 教諭	・ ・ ・ ・ ・	9
・小学校第3学年	社会科	長浜市立神照小学校	太田 美紀子 教諭	・ ・ ・ ・ ・	11
・中学校第1学年	国語科	高島市立安曇川中学校	海東 真紀子 教諭	・ ・ ・ ・ ・	13
・中学校第3学年	理科	彦根市立南中学校	三宅 草 主幹教諭	・ ・ ・ ・ ・	15
・小学校第3学年	特別活動	守山市立物部小学校	秋口 裕貴 教諭	・ ・ ・ ・ ・	17
・小学校第2学年	国語科	愛荘町立秦荘東小学校	中村 千晶 教諭	・ ・ ・ ・ ・	19
・中学校第3学年	外国語科	米原市立伊吹山中学校	藤川 直子 教諭	・ ・ ・ ・ ・	21

資質・能力

「読み解く力」を発揮する児童生徒の姿

再構築



小学校第3学年 特別活動
28人なかよし
サニーパーティーをしよう
守山市立物部小学校
秋口 裕貴 教諭

転入してきた友だちと仲よくなるための楽しみ会を開くことに向けて話し合い、相手の思いや意図を踏まえながら、納得解を創り上げる姿

小学校第2学年 国語科
動くおもちゃのハンドブックを
プレゼントしよう
愛荘町立秦荘東小学校
中村 千晶 教諭

教材文から読み取ったことや、友だちとのやりとりから得たことを生かして、より分かりやすい説明書になるように自分の考えを見直している姿

中学校第3学年 外国語科
Living with Robots
-For or Against
米原市立伊吹山中学校
藤川 直子 教諭

ディベートで相手の意見に応じて自分の考えやその理由を伝えたり、意見を書いたりすることを通して、自分の考えをより確かなものにする姿



分析・整理



小学校第5学年 算数科
平均（ならした大きさの
求め方を考えよう）
野洲市立野洲小学校
角 憲幸 教諭

資料の中に0がある場合の平均の求め方について、考えを図や言葉、式、表、グラフ等を用いて説明し合いながら比較・検討する姿

小学校第3学年 社会科
安全なくらしを守る
長浜市立神照小学校
太田 美紀子 教諭

警察署や関係機関の相互の関連や、従事する人の願いなどを考えるために、聞き取り調査で分かったことを出し合い、共通点等について話し合う姿

中学校第1学年 国語科
解釈したことをアナザー
ストーリーで伝えよう
高島市立安曇川中学校
海東 真紀子 教諭

文章の内容を解釈するために、他者とのやりとりを通して、小説のどの場面や描写を結び付けるよいかを話し合う姿

中学校第3学年 理科
仕事とエネルギー
彦根市立南中学校
三宅 草 主幹教諭

運動する物体のもつエネルギーの大きさと速さはどのような関係があるか、複数の実験データを整理して分析する姿

発見・蓄積



小学校第1学年 国語科
「びっくり！生き物のひみつ」
を友だちに説明しよう
大津市立長等小学校
左寄 綾子 教諭

自分が見つけた生き物のひみつを説明するために、教科書教材で学んだ視点を基に、自分が選んだ図書資料から重要な語や文を取り出す姿

中学校第2学年 数学科
平行と合同
近江八幡市立八幡中学校
柳内 祐樹 教諭

根拠を基にした予想を立て、証明する論理的思考力を身に付けるために、習得した三角形の合同条件等から必要な情報を取り出す姿

中学校第3学年 社会科
個人の尊重と日本国憲法
湖南市立甲西中学校
藤井 雄基 教諭

よりよい社会の在り方について追究し、基本的人権の尊重に対して自分なりの考えを表現するために、資料から必要な情報を取り出す姿



目的意識

「びっくり！生き物のひみつ」 を友だちに説明しよう (「うみのかくれんぼ」光村図書)

主な目標

文章の中の重要な語や文を考え、選び出すことができる。

次	時	主な学習活動
0		生活科「生き物ずかん」を学び、生き物に興味をもつ。生き物に関連する図書資料を読み、生き物に興味をもてるようにする。
1	①	単元の学習内容や目的を理解し、学習の見通しをもつ。
	②	教科書教材の3つの生き物の中から「一番びっくりしたこと」を出し合い、学習の計画を立てる。
	③～⑤	教科書教材を用いて「びっくり」の視点を見つけ、自分が選んだ関連する図書資料から「びっくり」を見つける。
2	⑥	自分で選んだ生き物の「びっくり！生き物のひみつ」をペアで交流し、自分の考えを確かにする。
	⑦	自分が見つけた「びっくり」とその理由を整理する。
3	⑧	「びっくり！生き物のひみつ」を他の学級の友だちに説明し、単元での学びを振り返る。

【発見・蓄積】必要な情報を確かに取り出す

指導のポイント

- ◎教科書教材で学んだことを、自分が選んだ図書資料を読むときに生かせるような単元構成にすることで、児童が適切に「発見・蓄積」する姿につながります。
- ◎目的に応じて情報を「発見・蓄積」するプロセスが充実することで、多くの情報から「分析・整理」する必然性が生まれます。
- ◎他者と交流する際には、一方向ではなく双方向のやりとりをすることが、相手の思いや考えをより確かに理解することにつながります。

公開授業レポート

授業公開日:令和2年10月27日
授業実践校:大津市立長等小学校
第1学年 国語科

単元の概要(目標・流れ)

児童が「文章の中の重要な語や文を考え、選び出すことができる」という目標に向かい、教科書教材での学習を生かして、自分が選んだ関連する図書資料から見つけた「びっくり」を他の学級の友だちに説明することを単元のゴールとしています。

本時の概要(目標・流れ)

自分が見つけた生き物の「びっくり」とその理由について、本文の中から重要な語や文を選んで、説明することができることを目指して、ペアでの交流を何度も繰り返しながら、「分析・整理」、「再構築」のプロセスを経て、考えを確かなものにします。

授業の中で見られた「読み解く力」を発揮している児童の姿(・)とそのために有効だった手立て等(⇒)

・自分の「びっくり」とその理由を他学級の友だちに説明する姿が見られました。

・ペアでの交流を通して、感じたこと・考えたことを自分の「分析・整理(特に伝えたい「びっくり」を3つ選び、その理由を考える)」に生かす姿が見られました。
⇒交流後に「びっくり」について自分で考える(再度選ぶ)活動を設定する。

【前時まで】

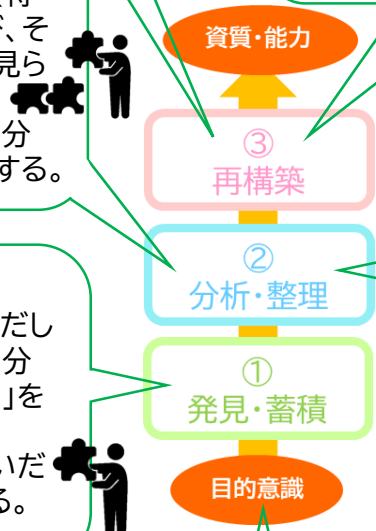
・教科書教材の学習を通して見いだした「びっくり」の視点をもって、自分が選んだ図書資料から「びっくり」を見つける姿が見られました。
⇒教科書教材で児童と一緒に見いだした「びっくり」の視点を提示する。

・友だちに生き物の「びっくり」とその理由を伝えたいという思いをもち、活動の見通しをもつ姿が見られました。
⇒教師が作成した言語活動モデルを提示し、児童とともに単元を計画する。
⇒生活科の学習と関連させたり、関連する図書資料を準備したりする。

・3回の交流を通して、「びっくり」とその理由について自分の考えを説明することができたか、交流で得た友だちの反応や自身の手応えなどをもとに振り返っている姿が見られました。
⇒交流後の振り返りの時間を確保する。

・交流を繰り返す中で、伝えたいことを明確に言語化したり、自分の考えを深めたりする姿が見られました。
⇒ペアを代えながら3回の交流活動を設定する。

・双方向のやりとりを通して、相手の思いや考えをより確かに理解する姿が見られました。
⇒聞き手の児童が、説明の内容を確かめるよう指導する。



授業者の振り返り

・教科書教材の学習を通じて、児童と一緒にびっくりの視点を見つけ、明確にすることが、自分の選んだ生き物の「びっくり」を伝えたいという思いをもち、大切だと思う言葉を選び出す姿につながったと思います。
・クラスの児童の実態から、自分が選んだ生き物の「びっくり」は3つに絞ることや、ペアを代えながら3回交流を繰り返して説明することにしました。その中で、「分析・整理」する姿につながるような手立てや支援、声かけの仕方等、工夫していく必要があると感じました。

研究協議から見いだした授業改善のポイント

・学んだ視点をすぐに生かせる場を設定することが、児童が主体的に学習に向かう姿につながります。
・ペアで交流をして感じたことや考えたこと、うまくいったことや、うまくいかなかったことなどを全体で交流することが、自分の説明を分析・整理することにつながっていきます。
・交流を繰り返すことが、理由を確かにしたり、聞き手を意識して説明したりする姿につながっていきます。発達段階に応じて交流のもち方を工夫していくことが大切です。

平行と合同

主な目標

平行線や三角形などに関する基本的な性質を見だし、それらを論理的に確かめ、表現することができる。

次	時	主な学習活動
1	①②③	様々な角の性質を知る。
	④	図形の性質を補助線を使って調べる。
	⑤⑥	多角形の内角と外角の和を調べる。
	⑦	図形の性質の調べ方がわかる。
2	⑧⑨	合同な図形の性質と三角形の合同条件を知る。
	⑩⑪	三角形の合同条件を使って合同かどうかを判断する。
	⑫⑬	証明の仕組みを理解する。
3	⑭⑮	合同な図形の性質等を利用して問題解決する。

【発見・蓄積】必要な情報を確かに取り出す

指導のポイント

- ◎導入の場面では、「発見・蓄積」のために既習内容を適切に確認することが大切です。
- ◎ノートやプリント等を振り返り、既習内容を必要な情報として取り出すよう、日常的に指導するようにします。
- ◎「発見・蓄積」のプロセスを充実させることが、自力解決と交流を豊かに往還しながら「分析・整理」を進め、「再構築」することにつながります。

公開授業レポート

授業公開日:令和2年11月18日
授業実践校:近江八幡市立八幡中学校
第2学年 数学科

単元の概要(目標・流れ)

本単元では、単元の前半に平行線や三角形の合同を学習し、後半はそれらを基にして、演繹的に推論することによって三角形などの基本的な性質や定理について考え、図形についての理解を深めるとともに、論理的に確かめ、表現する力を養うことを主な目標としました。

本時の概要(目標・流れ)

第10、11時の、三角形の合同条件を使って合同かどうかを判断する場面において、習得した三角形の合同条件等から必要な情報を取り出し、根拠を基にした予想を立て、論理的に証明することを目指しました。

授業の中で見られた「読み解く力」を発揮している生徒の姿(・)とそのため有効だった手立て等(⇒)

・交流によって理解したことや新たな発見を踏まえて自分の考えを練り直す姿や適用問題に取り組む姿が見られました。
⇒交流後に問題に向き合う時間を確保する。

・授業の終末において、生徒自身が本時の学びを振り返り、どのように解決したのかを言語化する姿が見られました。
⇒「振り返り」の視点を明確化し、日常的な「振り返り」の実践を行う。

・既習内容の性質・定理を根拠として、予想を立て、分析・整理する姿が見られました。
⇒自力解決のための時間を確保する。

・他者の考えと自分の考えを比較・検討することで、自分の考えを整理する姿が見られました。
⇒試行錯誤しながら、考えたことが正しいかどうかを交流し、確かめる場面を設定する。

・本時の問題に対して、既習内容「三角形の合同条件」から必要な情報を引き出そうとする姿が見られました。
⇒既習内容が定着しているか確認するためのペア学習を設定する。
⇒既習内容から考えた生徒の考え方を教師が取り上げ、全体で共有する。
⇒ノート・学習ファイルから既習内容を見返すよう日常的に指導する。

※この学校では、生徒が自主的に交流することを認め、他者との対話による学びの深まりを大切にしています。



・2つの三角形が合同であるにはどのような条件を満たせばよいか見通しをもって自ら考えようとする姿が見られました。
⇒本時の問題とこれまでの学習内容を踏まえ、生徒と一緒に「めあて」を設定する。
⇒具体的で明確な「めあて」を設定する。

授業者の振り返り

・課題解決の場面では、生徒が学習したこと(既習内容)の中から活用できることを選び、それを根拠として説明できるようにすることを大切にしています。そのことが数学科で目指す資質・能力の確かな育成につながると考えています。
・単元や学習のゴールを生徒と共有することを大切に授業を心がけています。
・「読み解く力」の2つの側面や3つのプロセスを循環させながら、単位時間の展開や単元の学習計画、さらに年間の指導計画をつくることが重要であると感じました。

研究協議から見いだした授業改善のポイント

・ゴール(つけたい資質・能力)を明確にして、生徒と共有することで、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげることができます。
・特に「分析・整理」を重視する学習は、既習内容が基盤となるため、前時までの振り返りを丁寧にする必要があります。
・自力解決を促すには、試行錯誤を可視化し、残す工夫が有効です。
・振り返りにおいて、どのように解決したのかを言語化することは、再構築につながる重要な要素です。

個人の尊重と日本国憲法

主な目標

自分自身や大切な人の幸せを守るために、権利や法について知り、これからの権利や法のあり方について考えることができる。

次	時	主な学習活動
1	① ⑤	○人権と日本国憲法 ・あってよいちがいとあってはいけないちがいについて考える。 ・人権という考え方がどのようにして発展してきたのかを整理し、なぜ憲法が必要なのかを理解する。
2	⑥ ⑫	○人権と共生社会 ・日本国憲法のなかで、基本的人権の尊重はどのように定められているのか、また、基本的人権の尊重という考え方が、社会のなかでどのような役割を果たしているのかを確認する。 ・平等権について、「ちがいのちがい」を追究する。
3	⑬ ⑮	○これからの人権保障 ・時代の変化とともに、新しい人権保障が必要になってきたことを理解する。 ・国際社会のなかの人権保障について、「ちがいのちがい」を追究する。

【発見・蓄積】必要な情報を確かに取り出す

指導のポイント

- ◎導入の場面で、生徒が単元を通したためあてを確認し、見通しをもって学習に臨むことが、目的意識をもって情報を取り出すことにつながります。
- ◎自分の考えを書く場面や話し合う場面では、どうしてそのように考えたのか、取り出した情報(教科書や資料集等の内容)を根拠にするよう、指導を積み重ねます。
- ◎話し合う場面で、考えが食い違ったときや迷ったときには、もう一度、必要な情報を確かに取り出す「発見・蓄積」に戻って考え、より説得力のある考えを構築していきます。

公開授業レポート

授業公開日:令和2年10月20日
授業実践校:湖南省立甲西中学校
第3学年 社会科

単元の概要(目標・流れ)

本単元では、生徒が人権について考える活動等を通して、「自分自身や大切な人の幸せを守るために」権利や法について知り、これからの権利や法のあり方について考えました。

第1次「人権と日本国憲法」、第2次「人権と共生社会」、第3次「これからの人権保障」の流れです。

本時の概要(目標・流れ)

よりよい社会のあり方について追究し、基本的人権の尊重に対して自分なりの考えを表現するために、資料から必要な情報を取り出し、「平等権」を例に、これからの人権保障のあり方について考えることを目指しました。

第2次のまとめにあたる授業です。

授業の中で見られた「読み解く力」を発揮している生徒の姿(・)とそのために有効だった手立て等(⇒)

・グループや学級全体での交流を行い、様々な意見を分析・整理した上で、まとめの場面で自分の考えを再構築する姿が見られました。

⇒自分の考えを再度まとめる時間を確保する。

・最初の自分の考えと比べ、より確かな考えをもつ姿が見られました。



・本時で取り上げた平等権だけでなく、これまで単元を通して学んできた人権について振り返ったり、話し合いにおける他者との意見の相違に触れながら、平等について再度考えを深めようとした姿が見られました。

資質・能力

③ 再構築

② 分析・整理

① 発見・蓄積

目的意識

・資料を根拠に、「あってよいちがひ」、「あってはいけないうちがひ」について自分の考えを理由とともに書く姿が見られました。

⇒教科書や資料等の内容を根拠に記入できるよう日常的に指導する。



・資料の中から、学習の目的を意識し、既習の内容と結び付けて、自分の考えの根拠となる情報を発見する姿が見られました。

⇒学習のねらいや生徒の実態に応じた資料を提示する。



・自分の考えと他者の考えとを比較しながらやりとりをする姿が見られました。

⇒家庭学習を活用し、全員が自分の考えをもった上で交流する。
⇒交流の目的を明確化する。

・グループの生徒の指摘により、自分の意見を見直し、再度自分の考えをまとめる姿が見られました。



・生徒が単元のゴールやそこまでのプロセスを見通して学習に取り組む姿が見られました。

⇒本時の導入において、単元を通しためあてや本時のめあてを確認する。



授業者の振り返り

・「読み解く力」のどのプロセスにおいても、生徒が学習に対する目的意識をもてるようにすることが重要であると、授業における生徒の姿から感じました。

・生徒が社会的な見方・考え方を働かせるために、資料の提示について「どんな資料を」「どのようなタイミングで」「どれくらい」などを大切に授業をつくることを心がけています。

・生徒の「振り返り」の記述の中に「再構築」している姿を見いだせるように、授業者が事前に期待する「振り返り」を明確にもち、学習の目標に応じた「振り返り」の視点を示せるように工夫していきたいと思いました。

研究協議から見いだした授業改善のポイント

・単元や本時のねらいを達成できるように、また生徒が自分の考えを根拠を明確にして説明できるように、どのような資料を提示するのが重要です。

・生徒が交流を通して自分の考えを広げたり深めたりできるように、家庭学習などを活用して自分の考えをはっきりさせたり、交流の目的を明確にしたりすることが必要です。

・自分の考えを単元の最初と最後で比較できるように学習を計画し、単元の学習過程を振り返ることが、自分の考えの変容を実感できる「再構築」につながります。

平均（ならした大きさの求め方を考えよう）

主な目標

平均の意味や求め方を理解し、平均を求めたり、平均を活用して問題を解決したりすることができる。

時	主な学習活動
①	<ul style="list-style-type: none"> ・「ならず」ことの意味を理解するために、身の回りの「ならず」場面を想起したり、操作を行ったりする。 ・「平均」の用語とその意味や求め方について理解する。
②	<ul style="list-style-type: none"> ・平均の意味や求め方を図や式に表して考え、説明している。 ・求めた平均が小数で表せることを理解する。
③	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の中に0がある場合の平均を求める。
④	<ul style="list-style-type: none"> ・「仮の平均」を使って、平均を求める。
⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・平均を使って、もとの資料の大きさを求めたり、全体の量を推定したりする。
⑥	<ul style="list-style-type: none"> ・平均を使って歩幅を求めたり、歩幅を使っていろいろな場所のおよその長さを測定したりする。
⑦	<ul style="list-style-type: none"> ・たしかめ問題をする。

【分析・整理】情報を比較し、関連付けて整理する

指導のポイント

- ◎「自力解決」の場面では、既習内容を想起できる掲示物等を準備しておくことが、児童が多様な表現で自分の考えの根拠を書ける手立ての一つとなります。
- ◎「学び合い」の場面では、児童の多様な考え方や一つの考え方に対して多様な表現方法を取り上げて比較・検討をしていきます。
- ◎一人の児童が説明するだけでなく、友だちの考えを違う児童が説明したり、説明を付け加えたりすることで、自分の考えを確かなものにしたたり、新しく創り上げたりすることができます。

公開授業レポート

授業公開日:令和2年10月21日
授業実践校:野洲市立野洲小学校
第5学年 算数科

単元の概要(目標・流れ)

「平均の意味や求め方を理解し、平均を求めたり、平均を活用して問題を解決したりすることができる」ことを目標に、児童の日常の生活場面や体験活動から、平均の求め方について考えたり、平均を活用して問題を解決したりする場面を設定しました。

本時の概要(目標・流れ)

第3時の内容です。児童が資料の中に0がある場合の平均の求め方について、考えを図や言葉、式、表、グラフ等を用いて説明し合いながら比較・検討し、0の処理のしかたを見いだしました。

授業の中で見られた「読み解く力」を発揮している児童の姿(・)とそのために有効だった手立て等(⇒)

・1時間の学習の「まとめ」を自分の言葉でまとめる姿が見られました。
・「まとめ」を活用して解く適用問題で、「わかった」ことを「できた」につなげる姿が見られました。
⇒まとめとなるキーワード(児童の発言やつぶやきから)を示す。

・友だちとの考えの交流から自分の変容を振り返る姿が見られました。
⇒「振り返り」の視点を提示する。

・自分の考えを根拠をもとに説明する姿が見られました。
⇒自分の考えをノート等へ書き表すよう日常的に指導する。
⇒ペア交流による全員が説明する場面を確保する。

・児童がやりとりを通して、多様な考え、多様な表現方法について比較・検討する姿が見られました。
⇒ホワイトボードを活用して、考えの視覚化・類型化をする。
⇒ねらいに迫るための児童の考えのつながりを意識し、教師がファシリテートする。

・0を含む場合の「平均」の求め方について考え、多様な表現で自分の根拠を表現する姿が見られました。
⇒一目で既習内容を想起できる掲示物等を準備する。

・友だちの多様な表現から、必要な情報を取り出す姿が見られました。
⇒友だちの発表に対して、気付きや納得(「あ!」「あ〜!」)、共感(「いいね!」)や疑問(「えっ!?!」)など反応しながら聞くよう日常的に指導する。

・ゲームの結果を「平均」を用いて比べますが、本時は資料に0が含まれることから、0を含む場合の「平均」の求め方を考えようとする姿が見られました。
⇒日常の事象を数理的にとらえた学習問題を設定する。
⇒既習内容との違いを考える発問をする。

授業者の振り返り

・既習内容を一目で確認できる掲示物を準備したことが、「めあて」の設定や自力解決、対話の時に自分の考えを整理したり分析したりする際の支援となりました。
・学び合いの場面では、『つなぐ』場面を意識しました。「図や式や言葉を『つなぐ』場面」では、多様な表現(例えば、式、言葉、図、表、グラフ等)を関連付けて説明する場面を設定しました。「個々の考えを『つなぐ』場面」では、一人ひとりの児童が、どのような考えを持っているかを把握し、学び合いの場面で児童と児童の考えをつなぐ発問や切り返し等を心がけました。

研究協議から見いだした授業改善のポイント

・自力解決の場面や学び合いの場面では、本時のねらいである「0が資料に含まれる場合の0の処理をどうするか。」つまり、「0をどうするか」に話合いの焦点を絞ること(=焦点化を図ること)でより個人の思考や学び合いが深まります。
・比較・検討する際、児童が複数の考えをつなげながら、0の処理について説明することができるよう、板書を整理しておくことが有効です。
・児童が自分の考えや思いなどを、安心して表現できる人間関係や、思いやりをもって関わり合い、互いの違いを認め、高め合える集団づくりが読み解く力の育成にも大きく関わります。

安全なくらしを守る

主な目標

安全なくらしを守るために、従事する人々の働きや相互の関連を知り、自分たちができることを考えることができる。

次	時	主な学習活動
1	①②	学習問題「なぜ自分たちが安全に生活できているのか。」を設定し、学習計画を立てる。
2	③	消防署への見学計画を立てる。
	④⑤	消防署を見学する。
	⑥⑦⑧	見学したことをまとめる。
3	⑨	交通安全について学習の見通しをもつ。
	⑩⑪	警察官、スクールガード、市役所の方に聞き取り調査する。
	⑫	聞き取り調査したことをまとめる。
4	⑬⑭⑮	学習問題についてまとめ、発表する。

【分析・整理】情報を比較し、関連付けて整理する

指導のポイント

- ◎児童が目的意識をもちながら、聞き取り調査することが、学習問題の解決に必要な情報を取り出すことにつながります。
- ◎付箋やホワイトボード等を用いて自分の考えを可視化することで、グループでの意見交流が活発になり、「分析・整理」の質を向上させることにつながります。
- ◎振り返りの場面において、既存の知識と、交流により「分析・整理」された情報がつながることで、児童が自分の考えを「再構築」することができます。

公開授業レポート

授業公開日:令和2年11月25日
授業実践校:長浜市立神照小学校
第3学年 社会科

単元の概要(目標・流れ)

児童が「なぜ自分たちが安全に生活できているのか」という学習問題を解決するため、見学や聞き取り調査をしたり、「なぞにせまろう会議」で話し合ったりすることを通して、安全な暮らしを守るために、従事する人々の働きや相互の関連を知り、自分たちができることを考えました。

本時の概要(目標・流れ)

交通安全について、児童が警察署や関係機関の相互の関連や、従事する人の願いなどを考えるために、前時までの警察官・スクールガード・市役所の方への聞き取り調査で分かったことを付箋やホワイトボードを用いて出し合い、共通点等について話し合いました。

授業の中で見られた「読み解く力」を発揮している児童の姿(・)とそのために有効だった手立て等(⇒)

・3色の付箋とホワイトボードを用いて、警察官、スクールガード、市役所の方(三者)について調べたことを3つに分けて貼り、その後、思いや願いに関わる内容(付箋)を相談しながら選ぶ姿が見られました。
⇒自分たちの考えを、付箋やホワイトボードを用いて可視化しながら交流することで、意見交流が活性化される。



・地域の安全な暮らしを守る三者から直接聞き取る学習活動において、分かったことをメモする姿が見られました。
⇒本時の「交流学习」を、三者混合のグループにすることで、調べたことを友達に伝えたい気持ちが高まる。



・児童が「なぜ自分たちが安全に生活できているのか?」という学習問題を解決するために、消防署を見学したり、「なぞにせまろう会議」で話し合ったり、警察官やスクールガード、市役所の方から話を聞いたりする姿が見られました。
⇒身近な地域の「危険カード」や「事故マップ」を作成する。



・交流で気づいたことを踏まえながら、自分の考えをまとめる姿が見られました。交流を通じて、従事する人の共通の願いや思いに気付く姿も見られました。
⇒交流後に、ワークシートに振り返りを記入する。



・夕方のスクールガードの見守り時刻の設定の理由について、「交通量が多いから」だけではなく、「暗くなるから」という新たな視点を得る姿が見られました。「交流学习」において、児童が、相手の思いを自分の考えと比較しながら整理していることがわかります。
⇒「交流学习」を、三者混合のグループにすることで自分の調査内容を他の二者と比較しやすくなる。
⇒交流の前に「ホワイトボード上の決められた場所に付箋を貼ること」や「付箋については、意見や理由を述べながら貼ったり、移動させたりすること」などを指導する。



授業者の振り返り

・単元の導入において、目的意識の共有や学習問題の設定を丁寧に行うことが、児童の主体的な学びにつながると感じました。
・調べたことを「何のために」「何を」「どのように」比べたり、選んだりするのかを、児童と共有してから交流を行ったことで、より確かな考えをもつ児童の姿につながりました。
・授業者が「再構築」している児童の姿を明らかにし、それを達成するためには、どのような「分析・整理」や「発見・蓄積」が必要か、児童の思考に沿ったプロセスの授業を大切にしたいと思いました。

研究協議から見いだした授業改善のポイント

・児童が目的意識をもって学習に取り組めるよう、単元導入時において、身近な実際の社会的事象と出会うことで実感を伴った学習問題を設定することが重要です。
・明確な学習のゴールを設定し、見通しをもって粘り強く学習を進めることが大切です。
・グループで交流する際に、付箋に書き出したひみつ(情報)をホワイトボードに貼るなど、児童の思考を可視化することが有効です。

解釈したことをアナザー ストーリーで伝えよう

(「少年の日の思い出」 光村図書)

主な目標

場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈することができる。

次	時	主な学習活動
1	①	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習を振り返り、本単元の学習目標をもつ。 教材文を通読し、話の展開や内容をつかむ。
	②③	<ul style="list-style-type: none"> どのような「アナザーストーリー」をつくりたいかを考え、学習計画を立てる。 内容を解釈するために、「問い」を考える。
2	④	<ul style="list-style-type: none"> 内容を解釈し、「問い」について考える。 解釈したことを「違う人物」を選んだ者と交流する。
	⑤	<ul style="list-style-type: none"> 解釈したことを「同じ人物」を選んだ者と交流し、再考する。
	⑥	<ul style="list-style-type: none"> 「アナザーストーリー」の下書きをする。
	⑦	<ul style="list-style-type: none"> 下書きを交流し、助言し合う。
3	⑧	<ul style="list-style-type: none"> 「アナザーストーリー」を交流し、単元での学びを振り返る。

【分析・整理】情報を比較し、関連付けて整理する

指導のポイント

- ◎他者とのやりとりにおいて「何のために」「何を」「どのように」など、目的、内容、進め方を生徒が理解して学習活動に取り組むことが大切です。
- ◎付箋を使って、他者との違いをメモしたり、実際に情報を結び付けたりするなど、具体的に操作しながら学習できるようにすることが重要です。
- ◎他者とのやりとりを通して、自分の考えがどのように広がったり深まったりしたのかを踏まえ、学習課題をまとめたり、学びを振り返ったりすることが「再構築」につながります。

公開授業レポート

授業公開日:令和2年10月26日
 授業実践校:高島市立安曇川中学校
 第1学年 国語科

単元の概要(目標・流れ)

場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈し、それを基にアナザーストーリーをつくりました。

- (1) 学習内容を理解し、学習計画を立てる。
- (2) 「問い」を設定し、自分で考えたり、他者とのやりとりを通して、内容の解釈をしたりする。
- (3) アナザーストーリーをつくり、学級の仲間に伝える。

本時の概要(目標・流れ)

他者とのやりとりを通して自分の考えを広げたり深めたりし、場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈することを目指す学習です。

授業の中で見られた「読み解く力」を発揮している生徒の姿(・)とそのために有効だった手立て等(⇒)

・交流をきっかけに、教材文を再び読み深めて、内容を解釈しようとしている姿が見られました。
 ・友だちとの議論を思い出したり、メモをした付箋を見直したりしながら、自分の考えをまとめている姿が見られました。
 ⇒ 掲示物やワークシートを活用し、小説の内容を俯瞰して解釈できるように工夫する。



・話合いが順調に進んでいないグループに対して、教師から見通しを促す適切な支援があり、スムーズに話合いが行われる姿が見られました。
 ⇒ 付箋やワークシートとともに、掲示物やICTを活用することで、生徒自身が困ったときに確認できるような手立てを工夫する。

・本文の言葉の意味を正確に理解するために、理解があいまいな単語の意味を国語辞典で調べる姿が見られました。
 ・疑問に思う箇所を解決するために、本文から必要な情報を見つけ出そうとする姿が見られました。
 ⇒ 小説の内容をより理解するために、人物に関する生徒個々の問いを設定し、主体的に取り組めるようにする。

資質・能力

③ 再構築

② 分析・整理

① 発見・蓄積

目的意識

・単元のゴールと本時の学習内容とのつながりを理解して、学習に取り組む姿が見られました。
 ⇒ 単元のゴールである言語活動(アナザーストーリーの作成)と本時の内容を結び付け、見通しをもって取り組めるようにする。

・模造紙や付箋を活用して、自分の考えと友だちの考えとの共通点や相違点を比較・分析する姿が見られました。
 ・互いの考えを分類し、解釈を深める姿が見られました。
 ・注目する人物になりきって、その状況を熱演する姿が見られました。
 ・友だちの説明に対して、相槌を打ち、共感しながら考えを聞く姿が見られました。
 ⇒ 交流前に、交流の目的や方法を確認し、交流の時間を十分に確保する。

授業者の振り返り

- ・他者とのやりとりの後は、自分でもう一回考え直して、頭の中を整理したり、それを自分でどうやって整理するかということを考えたりしている生徒が多いです。
- ・国語のファイルを作り、単元の最後には、まとめの時間を設け、自分はこんなことができるようになった等が実感できるようにしています。積み重ねていくことで、生徒は「やり方」を身に付け、次はこういうふうに取り組んでみたいと自分たちで発案してくれています。
- ・生徒は分からないとファイルをよく見ます。そのため、生徒の「再構築」を次の同じジャンルの単元でどう生かすかを意識し、身に付けた力が発揮できるように計画的に取り組めるようにしています。

研究協議から見いだした授業改善のポイント

- ・グループ学習等の他者とのやりとりにおいては、「何のために」「何を」「どのように」など、目的、内容、進め方を生徒が理解して学習活動に取り組むことが大切です。
- ・グループ学習では、模造紙と付箋を使って、他者との違いをメモしたり、実際に情報を結び付けたりするなど、操作をしながら互いの考えを視覚化したり、共有化する手立てが有効です。
- ・「振り返り」の場面では、他者の考えを踏まえ、自分の考えの変容や、その理由を言語化し、学びを実感できるようにすることが重要です。

仕事とエネルギー

主な目標

運動の規則性について、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、物体の運動の規則性や関係性を見いだして表現できる。

時	主な学習活動
①	仕事の定義を理解する。
②	仕事の原理について整理する。
③	仕事の能率を比較する。
④⑤	仕事を計算で求めたり、比較できたりすることについて理解する。
⑥⑦	位置エネルギーの大きさは、物体の高さや質量とどのような関係があるかを考察し、「位置エネルギーの説明書」としてまとめる。
⑧	運動エネルギーの大きさは、物体の速さとどのような関係があるかを考察し、「運動エネルギーの説明書」としてまとめる。
⑨	力学的エネルギー保存の法則について理解する。

【分析・整理】情報を比較し、関連付けて整理する

指導のポイント

- ◎生徒が、目的を明確にもち、見通しをもって実験に取り組むことが、必要な情報を取り出すことにつながります。
- ◎実験結果を基に「分析・整理」を行う場面では、これまでの実験結果との共通点や相違点が焦点化できるよう工夫することで、一人ひとりの考察を支援することができます。
- ◎多様な考えを比べたり関連付けたりしながら、情報を多面的に分析することで、より妥当な考えをつくりだし、新たな関係性に気付くことができます。

公開授業レポート

授業公開日:令和2年11月9日
授業実践校:彦根市立南中学校
第3学年 理科

単元の概要(目標・流れ)

目標は、「運動の規則性について、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、物体の運動の規則性や関係性を見いだして表現できる」ことです。第1時から第5時の学びを基に、第6時から質量や速さとエネルギーの関係について、実験を通して考えました。

本時の概要(目標・流れ)

第8時として、運動エネルギーの大きさは、物体の速さとどのような関係があるか、表やグラフを活用して複数の実験データを整理して分析しました。また、考察したことを交流し、「運動エネルギーの説明書」としてまとめる学習です。

授業の中で見られた「読み解く力」を発揮している生徒の姿(・)とそのために有効だった手立て等(⇒)

・結果のグラフの線をひくとき、学級全体の結果がそろうと曲線がなんとなく見えてくることに気付く姿が見られました。
⇒前時のグラフや実験メモ、モニターに映した各班の数値などから、生徒自身が気付いていけるよう工夫する。



・「速さ」と「運動エネルギー」の関係について、多様な考えを比べたり関連付けたりしながら、情報を多面的に分析することで、より妥当な考えをつくりだし、新たな関係性に気付く姿が見られました。
⇒各班の考えを教師が意図的な指名でつなぎ、考えを整理できるようにする。



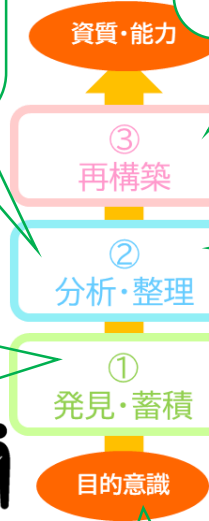
・生徒が、試行錯誤しながら、協力して実験データの収集を行う姿が見られました。
⇒「運動する物体のもつエネルギーの大きさと速さとはどのような関係があるか、実験データを整理し、考えをまとめる」という実験を行う目的意識や見通しをもてるよう工夫する。



・「数値が増えているのは分かるけれど、これまでの比例のグラフとは違うような…」「なぜ曲線になるのだろう…」「2次関数のグラフになるのかな。」など、実験で得た数値から意見を出し合い、考察する姿が見られました。
⇒互いのグラフを比べながら共通するところ、違うところを、分析・整理できるようICTを活用する。



・「運動エネルギーの説明書」をつくるという学習のゴールに向けて、どのように本時の実験を進めていくとよいのかを考え「速さ」に着目することに気付く姿が見られました。
⇒導入の映像資料等から具体的なイメージをもち、課題解決の見通しがもてるよう工夫する。



授業者の振り返り

- ・生徒が実験結果を分析して解釈し、物体の運動の規則性や関係性を見いだして具体的に表現できるような手立てを講じることや、再構築したことを言語化・文章化できる学習展開にすることが重要であると感じました。
- ・実験では数値を出すだけでなく、図や写真、動画、文章など、多様なものから必要な情報を取り出し、分析・整理することが大切であると感じました。
- ・ICTを活用し、生徒が目的意識をもったり、結果を共有したり、個々の考えを共有したりできる授業づくりを心がけています。

研究協議から見いだした授業改善のポイント

- ・ICTを活用し、映像資料等の提示から生徒が具体的なイメージをもち、課題解決の見通しをもてるようにすることが大切です。
- ・考察の際に、考えの根拠を書くための手立てとするために、既習内容を想起できる資料等を準備しておくことが大切です。
- ・より妥当な考えを導くために、全てのグループの実験結果を一覧にするなどの工夫が有効です。
- ・全体の交流の場面では、生徒が自分の考えを「再構築」していけるように、教師が意図的に指名しながら意見をつないでいくことが重要です。

28人なかよし サニーパーティーをしよう

主な目標

学級をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ることができる。

【議題】28人なかよしサニーパーティーをしよう。

次	時	主な学習活動
1	①※	学級会で話し合いたい議題を考える。
	②※	議題を選定し、提案理由を踏まえてアイデアカードに自分の考えを書く。
	③※	【司会グループ】アイデアカードに書かれた考えを整理し、学級会の進め方の確認をする。
2	④	学級会を開き、話し合う。(出し合う)
	⑤	学級会を開き、話し合う。(比べ合う・まとめる)
3	⑥⑦	話し合いで決まったことを実践する。
	⑧※	一連の活動について振り返りをする。

※の時間は、朝の帯時間等を実施

【再構築】自分なりに解決し、知識を再構築する

指導のポイント

- ◎短冊やマグネットなどを使い、出てきた意見などを整理し、可視化することで、全体での「分析・整理」が促進されます。
- ◎全体での話し合いにおいて、論点を明確にしたり、根拠を問うたりする発問や切り返しをするなど、話し合いを焦点化することが、相手の思いや意図を自分の考えや経験と「比べ合い」ながら、考えを「再構築」することにつながります。
- ◎十分な「分析・整理」が行われることが、意見の違いや多様性を認め合い、折り合いをつけるなど、集団としての考えをまとめたり決めたりする「合意形成」につながります。

公開授業レポート

授業公開日：令和2年11月24日
授業実践校：守山市立物部小学校
第3学年 特別活動

単元の概要(目標・流れ)

「みんなが仲よくなれる」をキーワードに、サニーパーティーであることを決める学級会を開くことにしました。この議題については、話し合いは2時間に分けて行い、1時間目には意見を出し合う、2時間目にはそれらを比べ合いまとめる活動を行いました。

学級での話し合いを経て、決まったことを実践、振り返りを行うという一連の活動を設定しました。

本時の概要(目標・流れ)

提案理由を踏まえて、各自がアイデアカードに考えを書き、司会グループはそれを事前に確認・整理した上で学級会に臨みました。

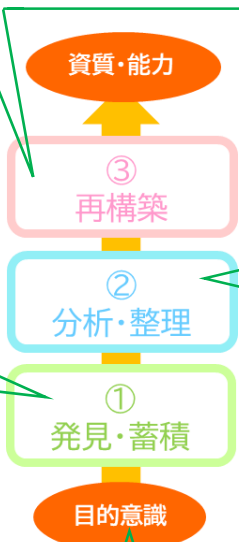
本時では、児童が転入してきた友だちと仲よくなるためのお楽しみ会を開くことに向けて話し合い、相手の思いや意図を踏まえながら、納得解を創り上げました。

授業の中で見られた「読み解く力」を発揮している児童の姿(・)とそのために有効だった手立て等(⇒)

- ・友だちの考えを聞き、心配が解消され、合意形成に向かう姿が見られました。児童は折り合いをつけながら話し合いを進め、全体でのまとめに入りました。
- ⇒出された意見(遊び)に対する心配な気持ちについて、「解決策」を挙げていく場を設定する。
- ⇒安易に多数決に頼ることなく、十分に考えを出し合い、比べ合うことで考えの変容が見られ、合意形成に向かうことができる。

- ・出てきた遊びについてどのような遊びかなどの質問をし、互いの考えについて確認をする姿が見られました。
- ⇒だれがどんな遊びをしたいと考えているかを短冊やネームプレートを使って板書に整理する。

- ・話し合いを行うまでに、各自がこれまでの経験をもとに提案理由を踏まえて自分の考えをアイデアカードに書いています。



- ・共通点がないか考えたり、友だちの意見に対してどのように考えたのかを確かめたりしながら12個の考えを9個に整理する姿が見られました。
- ・賛成・反対を表明するだけでなく、「〇〇が心配だから反対」等、過去の経験と比べながら、自分の心配な気持ちを伝える姿が見られました。
- ⇒授業者は出された意見(遊び)に対して、心配なことがないか聞くよう促すなど、学級全員に問いかけたり、司会グループに助言したりしながら合意形成を図るようにする。

- ・目的意識をもち、課題解決に向け主体的に話し合いに臨む姿が見られました。
- ⇒出てきた議題のうち、児童にとってより切実感や重要性のあるものを取り上げる。
- ⇒「クラスのみんながなかよくなれるようにしたいから」という目的意識を共有したり、お楽しみ会に使える時間、場所などの約束について説明する。

授業者の振り返り

- ・「みんながなかよくなれる」をキーワードに話し合いを進めるにあたって、そもそも「なかがよい」とはどういう状態なのかを事前に学級で確かめました。児童の言葉でまとめたものを掲示しておいたことで、児童は終始、視点を確かにして話し合うことができました。
- ・特別活動の時間だけではなく、他教科等の学習でも、「自分で考える→交流→再考」の流れを大切にしています。学級会での経験が生かされ、授業者が意見をまとめるのではなく、グループでまとめ、発表できるようになってきています。

研究協議から見いだした授業改善のポイント

- ・出された意見を短冊に書いて話し合いの経過に応じて移動できるようにしたり、ハンドサインを用いて賛成・反対・質問等、自分の意見の内容を表現したりするなど、あらゆる情報を視覚的に分かりやすく示すことで、全体での話し合いの流れが整理されたり、司会が意図的に指名したりすることができます。
- ・出された「心配なこと」についての解決策がないかを尋ねるなど、話し合いを焦点化することで、論点が明確になり、相手の思いを自分の考えと「比べ合い」ながら整理することや、考えの変容(再構築)につながります。

動くおもちゃのハンドブックを プレゼントしよう

(「馬のおもちゃの作り方」「おもちゃの作り方を
せつめいしよう」光村図書)

主な目標

伝えたいことを相手にわかってもらえるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。

次	時	主な学習活動
1	①	生活科「うごくうごくわたしのおもちゃ」を学習する。
	①②	学習課題を設定し、学習計画を立てる。
2	③	教材文を読みながら、馬のおもちゃを作る。
	④⑤	教材文から、説明の仕方や書き方の工夫を見つけ、「説明書名人」になるためのポイントをまとめる。
3	⑥	自分の選んだおもちゃの前書き、材料と道具について書く。
	⑦	作り方の手順のメモを作る。
	⑧	作り方の手順を確認し、文章の構成を考える。
	⑨⑩⑪	説明書を仕上げる。
	⑫	学習のまとめをし、単元での学びを振り返る。

【再構築】自分なりに解決し、知識を再構築する

指導のポイント

- ◎児童の実態を踏まえ、単元を通して資質・能力を育成するためにふさわしい言語活動を設定することが大切です。
- ◎「1年生に分かりやすい説明書にするために」など、話し合う目的を明確にすることで、話し合いが深まり、自分の考えを確かなものにしたり、新たな発見をしたりすることができます。
- ◎毎時間のゴールイメージを明確にすることで、「めあて」が自分たちのものとなります。そのめあてに対する振り返りの積み重ねが、自分の考えを深めたり、確かなものにしたりする姿につながっていきます。

公開授業レポート

授業公開日:令和2年11月12日
授業実践校:愛荘町立秦荘東小学校
第2学年 国語科

単元の概要(目標・流れ)

「伝えたいことを相手に分かってもらえるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる」に向けて、「おもちゃの作り方の説明書を書く」ことを言語活動に設定しています。単元を通して、説明の仕方や書き方の工夫を見つけながら、1年生に分かってもらえるように、自分の選んだおもちゃの説明書を仕上げていきました。

本時の概要(目標・流れ)

1年生に分かりやすい説明書にするために、書き方の工夫を考えながら、作り方の手順の簡単な構成を考えます。

授業の中で見られた「読み解く力」を発揮している児童の姿(・)とそのために有効だった手立て等(⇒)

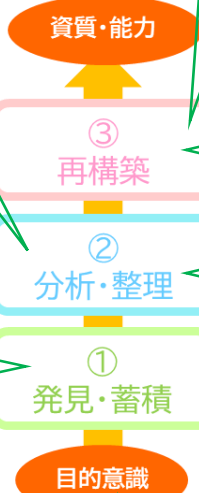
・話し合いの後に、必要な情報がないか、教科書教材や自分が選んだ本に返って、もう一度探し、さらに話し合いを深める姿が見られました。
⇒各グループの学習状況を見取り、それぞれに応じて支援する。

・教科書教材から、分かりやすい説明の仕方の工夫を見つける姿が見られました。
・見つけた工夫を自分の説明書に使う姿が見られました。
⇒実際に馬のおもちゃを作る時に、気をつけたところや、難しかったところを想起して考えられるようにする。
⇒教科書教材から見つけた説明書の書き方の工夫を、全文掲示の下に短冊で掲示し、全体で共有する。

・児童が単元のゴールである「自分の作ったおもちゃの作り方の説明書を書く」ことについて、具体的なイメージをもって学習に取り組む姿が見られました。また、本時で取り組む内容について、単元のゴールと結び付けて明確な「めあて」をもつ姿が見られました。
⇒育成する資質・能力にぴったり合った言語活動を設定する。
⇒言語活動を踏まえて学習過程を工夫する。

・毎時間の振り返りが次の時間の学習へとつながり、知識を再構築する姿が見られました。
⇒毎時間の振り返りを小さな再構築の積み重ねと捉え、めあてに関わって振り返りができるようにする。

・実際のおもちゃ作りを思い出しながら、自分と友だちが作った手順を読み比べ、同じ点や違う点を見つける姿が見られました。
⇒同じおもちゃを作った者同士でグループを作り、話し合う前に何のために話し合うのか、どのような説明を目指すのか等を見守り確認する。
・交流を通じて、自分の説明の不足に気付いたり、友だちの考えを生かして修正したりする姿が見られました。
⇒作り方の手順を付箋を使ってまとめていたため、手順の並び替えや追加がしやすくなる。



授業者の振り返り

・単元のゴールに向け、毎時間の学習に児童が目的意識をもち続けて取り組むことが大事であると考へ、常に単元の目標に立ち返る指導を行いました。
・視点を示し、授業を振り返る活動を設定したことは、児童が本時に学習したことを確かなものにし、次時のめあてを明確にし、主体的に学習に取り組む児童の姿が多く見られました。
・交流する場面では、友だちとのやりとりだけで終わるのではなく、やりとりで学んだことを基に、児童自らが情報を分析・整理し、再構築することが重要だと気付きました。

研究協議から見いだした授業改善のポイント

・本単元では、単元の導入で「おもちゃの作り方の説明書」のモデルを提示し、そのための学習活動を児童が考える時間を設定していました。また、単元名は単元のゴールがわかるものでした。このように、児童が学習過程が見通せる工夫を図ることが重要です。
・交流する活動では、交流の必然性を大切に、話し合う目的は何か、どのようなことを話し合うとよいのか、児童の実態に応じた言葉で共有しておくことが大切です。
・児童が授業で獲得した力を実感したり、次時の見直しをもったりするために、学習を振り返る活動を継続的に取り入れることが有効です。

Living with Robots – For or Against

主な目標

英語によるディベートを通して、相手の意見に応じて自分の考えやその理由を伝え合ったり、意見を書いたりすることができる。

次	時	主な学習活動
1	①	指導者とALTによる英語での議論を聞いたり、実際に議論をしてみたりすることで単元の目標を理解する。
	②③	教科書の内容を理解するとともに、新出表現について理解し、それらを使って表現できるようにする。
2	④⑤	教科書の登場人物について、彼らの立場やその理由を話の論点や根拠に着目しながら読み取る。
	⑥	教科書の題材を基に、ディベートを行う。 We should live with robots. For or against?
3	⑦	優先席についての英語による議論を聞いて、その内容を理解する。
	⑧	ディベートを行う。 We should use printed dictionaries. For or against?

ミニ
ディベート



【再構築】自分なりに解決し、知識を再構築する

指導のポイント

- ◎明確なゴールを示すことで見通しをもって活動し、友だちの表現から気付いたり、自分の表現を振り返ったりしながら、「再構築」に向けて粘り強く取り組むことができますようにします。
- ◎帯活動の設定や、＜言語活動－中間交流－言語活動＞という授業展開など、自分の考えや気持ちなどを伝える多様な経験が、英語で表現する力を高めていきます。
- ◎「聞いたことを基に話す」「話したことを基に書く」といった領域を統合した言語活動の中で、「分析・整理」⇔「再構築」を繰り返すことによって、「再構築」の内容をより確かなものにします。

公開授業レポート

授業公開日:令和2年11月13日
 授業実践校:米原市立伊吹山中学校
 第3学年 外国語科

単元の概要(目標・流れ)

生徒が、英語によるディベートを通して、相手の意見に応じて自分の考えやその理由を伝え合ったり、意見を書いたりすることができることを主な目標に、社会的な話題について実際にディベートを行ったり、意見を書いたりすることで、自分の考えをまとまりのある英語で表現することができる力を高めていきました。

本時の概要(目標・流れ)

「ロボットとの暮らし」についての英語によるディベートで相手の意見に応じて自分の考えやその理由を伝えたり、意見を書いたりを通して、自分の考えをより確かなものにしました。

授業の中で見られた「読み解く力」を発揮している生徒の姿(・)とそのため有効だった手立て等(⇒)

・ライティングの活動では、自分の意見を改めてまとめる姿が見られました。

⇒「聞いたこと」「話したこと」を基に、改めて自分の意見をまとまりのある英文で「書くこと」により、再構築をより確かなものにする。



・中間交流の内容を活用し、自分の意見を整理したり吟味したりする姿が見られました。

⇒中間交流では、ディベートⅠの内容を振り返り、整理(「論点整理」「さらに伝えたい表現の共有」「追加情報による自分の意見の整理と吟味」)する。

資質・能力

③ 再構築

② 分析・整理

① 発見・蓄積

目的意識

・前時までに読み取った4人の登場人物の意見を基に、与えられた立場で、考えとその理由を付箋に整理する姿が見られました。

⇒前時までに読み取った教科書の内容(4人の立場とその理由)を確認する。

・理由を整理した付箋を参考にしながら、賛成側と反対側に分かれて、ディベートをする姿が見られました。

・観察者は、友だちのやりとりについて論点に基づいて整理し、気づいたことをレポートする姿が見られました。

⇒ディベートは、賛成・反対に分かれてディベートを行う2人と、ディベートを聞いて内容をメモする観察者2人の、4人一組で行う。

・前時までに教科書で学習したことをテーマに、英語によるディベートを通して、相手の意見に応じて自分の考えや理由を伝え合うことができることを目指し、学習に取り組む姿が見られました。

⇒単元のゴールに向け、第2時から帯活動として身近なテーマによるミニディベートを行う。

(英語での議論に必要な表現や相手の意見に応じた反応の仕方を学習)

⇒前時までの学習を振り返り、本時のゴールについて見通しをもつ。



授業者の振り返り

・付箋を活用することで、自分の意見や話の論点について、視覚的に「分析・整理」することができ、「再構築」の手助けになったと思います。

・ディベートを通して「分析・整理」と「再構築」を繰り返すことによって、相手の意見を踏まえながら、まとまりのある英語で自分の意見を表現することが、だんだんとできるようになりました。

・中間交流では、ディベートⅠの内容について、生徒の発言をより引き出しながら「分析・整理」が行えるようになったと思います。

研究協議から見いだした授業改善のポイント

・単元の明確なゴールを示すことで、見通しをもって活動し、「再構築」に向けて粘り強く取り組むことができるようにすることが大切です。

・単元を通した帯活動の設定や<言語活動-中間交流-言語活動>という授業展開など、英語で表現する力を高めるためには、自分の考えや気持ちなどを伝える多様な経験を仕組むことが有効です。

・領域を統合した言語活動の中で、「分析・整理」と「再構築」を繰り返すことによって、「再構築」をより確かなものにするすることができます。

